

<今日の説教のポイント 創世記6～9章>

ノアの洪水。この一見恐ろしく思える神様の出来事の真の意味は？

1 「神様が滅ぼしたくなるのも分かる」と思ったことはありませんか。

創世記のノアの洪水の物語というと、全ての人間と生き物が洪水に飲み込まれてしまう場面(6:7, 13, 7:21-23)が目に見え、「恐ろしい。神様はこんなことをされるのか」と思う人も多いでしょう。しかし、今の私たちも、「こんなことばかり人間が起こしているのは、神様が世界を滅ぼしたくなるのも分かる」と思ったことはありませんか。そのような人間の罪の現実(私たち自身も含めて!)から考えるのが本当でしょう。

2 しかし、「滅ぼすことはしない」と決められた神様を示す話。

しかし、よく考えるとこの物語は恐い話などではなく、神様が「もはや私はこのようなことは二度としない」と思いを変えられたことを示す話です。それは、ノアが神様に捧げた宥めの香りをかがれたからです(8:21)。すなわち、今の私たちにとってはありがたい話なのです。

3 神様は、神様に従う一人の無垢な人ノアを見てそうされた。

6章7節以下には、神様が人を創造したことを後悔された、しかし、「ノアは主の好意を得た。これはノアの物語である。その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ」とあります。このノアがその後、「すべて神が命じられたとおりに果たした」(6:22, 7:5)ことが強調されています。それ故に、ノアの一家が生き延び、そこから新しい世界が再び始まるのです(9:1以下の表現は創世記1:1以下を思い出させる)。私たちはその中にあることになる物語です。

4 イエス・キリストはまさにノア！ この神様にふさわしい出来事。

この物語で表現されるノアの姿はどこかで聞いたことのある姿ではないでしょうか。そうです、新約聖書が告げるイエス・キリスト、神に従い通した無垢な(罪無き)人イエス・キリストです。このノアの洪水の話も歴史書ではなく、聖書の神様がどの様なお方であるか示す物語であり、この話を通して「もはや決して滅ぼさない」と誓われた神様(9:8以降 いわゆるノア契約)と私たちは出会い、イエス・キリストの到来とその出来事の中に、この物語で聞いたことをさらに深く、確かに確認させられ、イスラエルの民以上の信仰者、キリストの民となるのです！